

神大2位通過

箱根駅伝予選会

第96回東京箱根間往復
大学駅伝(来年1月2、
3日)の予選会が26日、

東京都の陸上自衛隊立川駐屯地から国営昭和記念公園にゴールするハーフマラソンのコースに關東の43校が参加して行われ、1位の東京国際大など上位10校が出場権を獲得した。6位の筑波大は26年ぶりの出場が決定。

総合優勝3度の山梨学院大は17位に沈み、連続出場が33大会で途絶えた。各校上位10人の合計タイムで争われ、東京国際大は10時間47分29秒で3

年連続4度目の出場。2位の神奈川大から日体大、明大、創価大と続き、7位以下の通過校は日大、国士館大、早大、中大、中央学院大のシード大だった。麗澤大は10位と26秒差の11位で初出場を逃した。

本大会は総合2連覇を狙う東海大、青学大、東洋大、駒大、帝京大、法大、国学院大、順大、拓大、国士館大、早大、中大、中央学院大のシード校とオープン参加の關東学生連合を加えた21チームが走る。

①東京国際大10時間47分29秒②神奈川大10時間50分55秒③日体大10時間51分9秒④明大10時間51分42秒⑤創価大10時間51分43秒⑥筑波大10時間53分18秒⑦日大10時間54分29秒⑧国士館大10時間55分21秒⑨早大10時間55分28秒⑩中大10時間56分46秒(10校が本大会出場。タイムは各校上位10選手の合計)



箱根駅伝予選会で2位に入り、本大会行きを決めた神奈川大の古和田(右)と越川

汗ばむ陽気の中、個性派集団の神奈川大が2位に入って実力を示し、箱根路への通行手形をものにした。4年生主体のチームは中盤まで抑えて後半に勝負をかけるレースプランだったが、5キロから15キロまでの通過順位でトップに立つ予想外の展開に。ペースを狂わす気温の上昇もあり、大後栄治監督(54)は「うちらしくないトップ通過で来て後半を心配していた」と振り返る。ただ、その心配も杞憂に終わり、最後まで積極的に攻めた選手たちは個人22位でフイニッシュした森を筆頭に、井手、北嶋が30番台で気を吐いた。

「今年のチームは仲が悪い。でも角が立ったままでいい」と大後監督は苦笑いする。個々の能力が高く、それぞれがポリシーを持つているがために衝突することもあるが、裏を返せば、なれ合いを避け意見交換できる風通しの良さが強みだ。

「その力が一つになれば箱根で総合1番も見えてくる」と越川。新たなカラーで結束力を高め、ひたすら上を目指す。(織田 匠、写真も)

昨冬の箱根では失意の総合16位。エース区間の2区を任された4年越川(金沢中出身)は、今予選会のチ